



「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	6
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	7

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

年始のご挨拶

2020 年、新年明けましておめでとうございます。

皆様には日頃より JRRN のネットワークの活動にご協力いただきまして大変ありがとうございます。

昨年も毎年のように発生する大きな災害が日本全土を襲いました。これまで経験したことのないような豪雨に見舞われ、全国各地で河川が氾濫して大きな水害となっていました。台風や豪雨はそれだけでは自然現象というだけですが、人々の生活に被害を与えれば「水害」となります。自然の営みは私たちの力では如何ともし難いのですが、それを災害としてしまうかどうかは、私たちが自然現象としての台風などどう付き合うかが問われるという意味で、「水害」は社会現象だと考えることができます。

昨年も JRRN の国際活動として香港政府渠務署や台湾台中市と交流し、東アジアモンスーン地域における水環境の課題を共有することができました。ここでは災害を発生するような豪雨に対して、どのように人々の命や経済の持続性を確保するか、各国の事情を紹介しあうことで、将来に向けての「水」の持続性について問題を共有することができました。

このような中、私たちにとってはちょっとショックな出来事がありました。それは 2018 年の西日本豪雨でたくさんの犠牲者を出した倉敷市真備町の小田川の決壊付近の河川敷の樹木が、1 本も残さず伐採撤去されたことです。ここの河川敷には非常に多くの木が密生していたことから、河川が樹林化したことが氾濫の原因になったと判断され、河川敷から全ての樹木を取り除くことになったのです。確かに犠牲者を出すような洪水の直後でもあり、樹林化は人々の命を危うくするとの評価は正しいと思います。

河川環境と治水と利水との共存を目指してこれまで長い間取り組んできた「多自然川づくり」の積み重ねから考えると、たっ

た 1 本の樹木も残さない「完全伐採」という決断は大変厳しいものがあります。これまで治水との共存を目指し「低木類や高木の直径と樹高、野球場バックネットポストやサッカー場のゴールポスト、ベンチやトイレなどの配置や向きと洪水の河積阻害率」などに対し、様々な関係者と一緒に多くの時間をかけ議論を積み重ねてきました。しかしこのような大きな災害が発生すると、一足飛びに結論が出てしまったように感じます。これからは気候変動による降雨の増大や台風の大型化を考えると、様々な局面があると思います。治水と利水と環境とをいかに共存共栄するように折り合いをつけていくかは、まさに大いに議論し現場で考えていかなければならないことだと思います。この積み重ねはコンピューターの中や机上の議論だけでは解決できません。

河川の現場であらゆる問題に一つ一つ解決策を見つけていく努力が求められていると思うのです。そういう点で私たちの草の根の活動は、これからも大変重要になっていくと思います。

昨年は神戸で 1 月に小さな自然再生サミットを開催しました。5 月には秋田県では多自然川づくり iRIC 研修に協力し、9 月には応用生態工学会で発表したり、ARRN 国際フォーラムも開催しました。また河川基金優秀成果表彰もいただきました。

今年は 2015 年に作成した「できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集」の第二弾を発表しようと現在取りまとめ作業中です。発表を楽しみにお待ちしております。

今年も各地で大いに「出来る事に挑戦して」ご活躍ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

JRRN 代表理事 土屋信行

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

JRRN 国際活動 – 台湾・台中市の変化を遂げる水辺事情

本号では、先月のニュースレターでご報告した台湾・台中市政府水利局との都市河川再生に関わる技術交流で訪問した台中市内の水辺をご紹介します。

台中市は台湾の中部に位置し、人口約 280 万人の台湾第二の都市です。市内を流れる河川の多くは、浸水被害や水環境の課題を現在も抱えておりますが、治水能力を高め、合わせて水質改善や良好な水空間を創出するための川づくりが地域と協働で精力的に取り組まれています。

かつての行政単独での川づくりへの反省から、計画策定から事業実施過程での地域住民との合意形成、行政による川づくりの取り組みの市民への積極広報など、川への関心を高め、市民と共に川づくりを進めていくための試行錯誤を重ねています。



台中市による川づくりの3段階ステップ（柳川を例に）



台中市政府水利局 facebook (フォロワーは 23,000 人以上)

以降では、台中市政府水利局の河川技術者に案内頂いた 5 つの河川について簡単に紹介させていただきます。

【1】緑川

<https://www.wrs.taichung.gov.tw/1206429/Nodelist>

緑川は、台中駅から徒歩圏内の市内中心部を流れ、水と緑の環境創出による周辺地域の活性化を目的に、歴史、文化、生活を主テーマとした親水整備が行われています。

かつて流入していた下水を遮断することで水質を改善し、川沿いの散策路や、文化活動、環境学習等を行うことができる空間も整備されています。緑川をラベルとした記念ビール販売やマンホール設置など、緑川をブランド化し市民に親しい存在とするための取組も行われています。

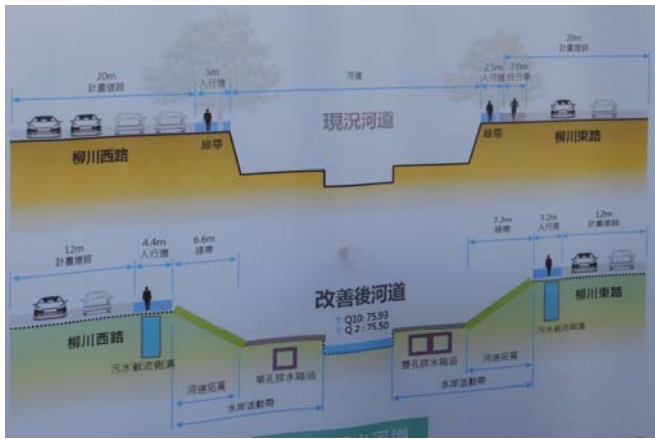


緑川及び緑川沿いの歴史説明展示

【2】柳川

<https://www.wrs.taichung.gov.tw/1206483/Nodelist>

浸水被害の軽減に向けた河道拡幅による流下能力向上とともに、礫間浄化等による水質改善、更に緑の機能を活かした雨水貯留浸透など環境配慮設計（LID: Low Impact Development）を施し、これまでの排水路としての河川から、地域にとっての美しい生態環境との触れ合いの場としての整備が行われています。



拡幅後の横断面図



柳川の親水空間



柳川沿いの植生過濾帶の紹介掲示



道路排水も水資源として活用 (LID 工法の一環)

【3】筏子溪

<https://www.wrs.taichung.gov.tw/1206488/Nodelist>

台中市のランドマークとなるような水辺の観光スポットとして、また河川が有する豊かな自然と触れ合う環境教育の場として筏子溪の親水広場は整備されました。台湾新幹線の車窓からも眺めることができ、夜は「TAICHUNG」の文字をライトアップすることで、新幹線の乗客にも台中市をアピールしています。



整備前と整備後の様子



冬でも記念撮影に訪れる観光スポットに



筏子溪の親水広場でのイベントの様子
(台中市政府水利局の facebook より引用)

【4】黎明溝

<https://www.wrs.taichung.gov.tw/1206494/Nodelist>

惠來溪の支川として雨水排水の機能を担っていた黎明溝は、上流部の治水事業完成によりその役割を失い、2010年には一度は埋め立て計画が持ち上がりました。しかし、地域住民は黎明溝を残すことを行政に提案し、計画及び設計段階から地域住民が黎明溝の新たな川づくりに参加することとなりました。

護岸損壊、水質悪化、また親水性欠如という三つの課題の克服に向け、護岸工事や植樹、水環境のモニタリングなどが地域住民と協働で進められ、現在は環境教育や地域交流活動の拠点として黎明溝が地域に親しまれ活用されています。



現在の黎明溝と環境教育の案内



今回の視察での黎明溝で活動する市民団体との交流会

【5】旱溪排水

<https://www.wrs.taichung.gov.tw/1206539/Nodelist>

公園及び大学に隣接する旱溪排水では、地域の親水の場合、特に水辺のレジャーの活性化を目的として、下流部を堰き止めて水位を上げることで、釣り場やカヌーの練習場、また水辺の休憩や散策のための空間を整備しています。

地元カヌークラブの練習場となっており、視察当日は、本年の東京オリンピックに台湾から出場予定のカヌー選手も練習に励んでいました。



旱溪排水のレジャーの様子

なお、本記事で紹介させて頂いた河川を含む、台中市による川づくりの関連情報は、以下の台中市政府水利局の水環境改善計画案内ページでご覧いただけます。

<https://www.wrs.taichung.gov.tw/1198573/Nodelist>

最後に、本技術交流において各現場の事業概要をご案内頂いた台中市政府水利局の河川技術者の皆さま、河川で活動される市民団体の皆さま、また行政と市民の橋渡しを担う逢甲大学の皆さまに厚く御礼申し上げます。引き続き台中市と日本の河川分野の経験共有にJRRNとして努めてまいります。

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

写真で振り返る 2019 年の JRRN 活動

小さな自然再生サミット 2019
<2019.1.26-27@神戸>



「小さな自然再生」研究会とともに、全国の担い手が集うサミットを開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/610>

H30 年度河川基金優秀成果表彰
<2019.1.27@東京>



(公財) 河川財団より「平成 30 年度 優秀成果表彰」をいただきました。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1039.html>

秋田県・多自然川づくり iRIC 研修協力
<2019.5.23@秋田>



バーク工の水理的影響評価習得を目的に iRIC シミュレーション研修会に協力しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/621>

香港政府渠務署(DSD)技術交流
<2019.5.28@香港>



河川行政に携わる DSD 職員を対象に日本の都市河川再生の経験を紹介しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/625>

第 1 回北海道の応用生態工学参加
<2019.5.31@札幌>



小さな自然再生に関する話題を提供し、参加者と学術交流を行いました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/628>

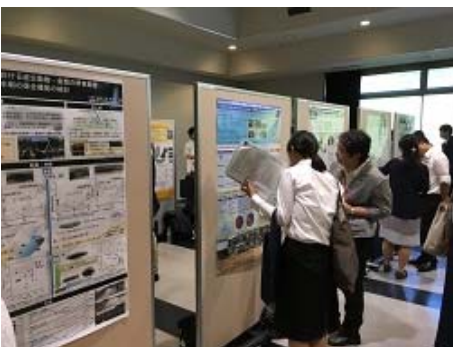
水の持続性に関する国際シンポ参加
<2019.7.11-12@香港>



「都市河川再生」及び「水の持続性に向けた教育」のセッションで日本の経験を発表しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/635>

応用生態工学第 23 回大会発表
<2019.9.27@広島>



水辺の小さな自然再生の普及と多様な川づくりの推進をテーマにポスター発表しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/644>

第 16 回 ARRN 国際フォーラム開催
<2019.10.22@ブリスベン>



ARRN『第 16 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/650>

台中市・河川再生シンポジウム参加
<2019.12.4@台湾・台中市>



都市河川再生をテーマとするシンポジウムで日本の経験を発表しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/656>

(JRRN 事務局・和田彰)

水辺からのメッセージ No.128

岡村幸二 (JRRN 会員)

カフェのある河岸テラス： 広島市の聖地を囲む太田川 賑わいを育てる水辺の風景



撮影：2019年12月（広島県広島市・元安川）

◆眺めのよい場所が居心地のよい空間に

元安橋に近いテラス部分は、元安橋、対岸の緑、水面の三方を眺めるのに最適の場所です。今ではカフェレストランやかき船の賑わいもあり、市民に支えられて水辺のまちづくりが広がっています。

◆シンプルな造形の河岸テラス

この橋詰広場手前の元安橋は、原爆慰霊碑のある平和公園への動線（聖域への参道）となります。都市の中心に広がる太田川派川エリアでは、河岸テラスがまちづくりに果たす役割が非常に大きいです。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

会議・イベント案内 (2020 年 1 月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■水循環セミナー2019 in 仙台～流域マネジメントの更なる推進に向けて～

○日時：2020 年 1 月 22 日 (水) 14:00～16:00
 ○主催：内閣官房水循環政策本部事務局
 ○場所：T K P 仙台カンファレンスセンター (宮城県仙台市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3076.html>

■第十五回「外来魚情報交換会」

○日時：2020 年 1 月 25 日 (土) ～26 日 (日)
 ○主催：琵琶湖を戻す会
 ○場所：草津市立まちづくりセンター 3 階 (滋賀県草津市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3041.html>

■令和元年度 川の再生交流会

○日時：2020 年 2 月 1 日 (土) 10:00～16:00
 ○主催：埼玉県
 ○場所：さいたま市民会館うらわ (埼玉県さいたま市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3087.html>

■“いい川”づくり研修会・近畿

○日時：2020 年 2 月 5 日 (水) 10:00～16:00
 ○主催：NPO 法人全国水環境交流会、NPO 法人近畿水の塾
 ○場所：尼崎市総合文化センター 7 階 第 2 会議室 (兵庫県尼崎市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3084.html>

■令和元年度 河川教育研究交流会

○日時：2020 年 2 月 8 日 (土) 12:30～17:40
 ○主催：公益財団法人 河川財団
 ○場所：東京大学 山上会館 (東京都文京区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3079.html>

■令和元年度 川づくり団体全国事例発表会

○日時：2020 年 2 月 9 日 (日) 13:00～17:00
 ○主催：公益財団法人 河川財団
 ○場所：東京大学 山上会館 (東京都文京区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3082.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

冊子等の紹介 *Publications*

■小さな自然再生サミット～できることから始めよう～ 2019 神戸大会 開催報告 (2019.2 発行)

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
 ・発行年月：2019 年 2 月
 ・ページ数：43 ページ



2019 年 1 月 26 日 (土) ～27 日 (日) に神戸にて開催しました『小さな自然再生サミット 2019 神戸大会』の開催成果報告書です。
 この開催報告は、サミット参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真とともに皆様にご紹介するものです。

■「できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集」(2015.3 発刊)

・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
 ・編著：「小さな自然再生」事例集編集委員会
 ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
 ・出版年月：2015 年 3 月



本事例集は、小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」が、小さな自然再生の全国への普及を目的として制作したものです。

■上記冊子の入手方法 ※PDF 版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

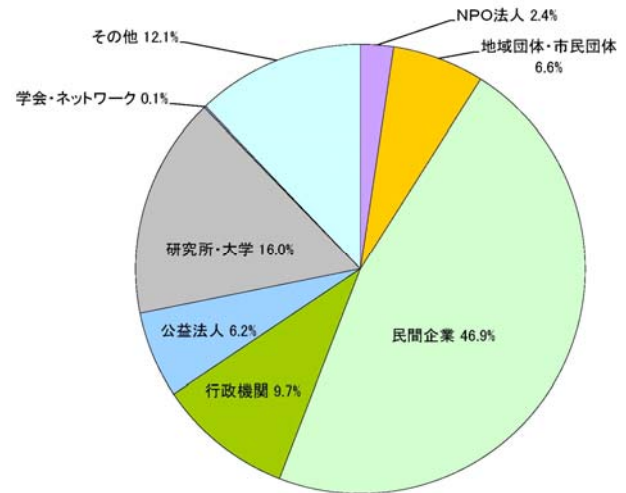
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2019 年 12 月 31 日時点の個人会員の所属構成

（個人会員数：802 名、団体会員数：60 団体）

※12 月の新規入会数： 個人会員 1, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRANが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>